

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西の景気については、「中国におけるロックダウン等の影響が残るものの、消費への感染症の影響が和らぐもとで、全体として持ち直している」として判断を上方修正しました。輸出・生産は、増加基調を維持していますが、中国におけるロックダウンや半導体不足等の影響が残存しています。個人消費は、感染症の影響が和らぐもとで、持ち直しが明確化していることから、判断を上方修正しました。また、6月短観で確認されたとおり、設備投資は増加しています。以下やや詳しく説明します。

第一に、輸出は、世界的なデジタル需要や設備投資の持ち直し等を背景に、電子関連部材や半導体製造装置、建機・農機などの一般機械を中心に増加基調は維持されていますが、中国のロックダウン等の影響が残存しています。中国向けは、ロックダウンを受けて電子関連部材を中心に一時弱めとなった後、ロックダウンの解除により緩やかに持ち直していますが、物流・供給制約は今しばらく残る見込みです。こうしたもとで、生産は、緩やかな増加基調を続けていますが、中国からの部品調達難や半導体不足等の影響が、輸送機械関連を中心に広範な業種で見られています。

第二に、個人消費は、感染症の影響の緩和を受けて人出が回復するもとで、持ち直しが明確化しています。百貨店販売は、高額品が好調であるほか、婦人衣料品などで動向がみられます。家電販売は、中国のロックダウンの影響で一部で品薄な商品もみられますが、横ばい圏内で推移しています。自動車販売は、受注は堅調ですが、中国におけるロックダウンや半導体不足による自動車減産の影響を受けています。一方、サービス消費は、外食が持ち直しているほか、旅行、宿泊も府民割・県民割の効果などから緩やかに持ち直しています。

第三に、設備投資は、増加しています。6月短観では、22年度の設備投資は、製造業を中心に上方修正され、前年度を1割程度上回る計画となっています。原材料費の高騰が企業収益の下押し要因となるもとでも、成長投資を中心に投資マインドは維持されています。製造業では、電子部品関連、脱炭素化関連、ライフサイエンス関連の増投資や研究開発投資が増加しているほか、非製造業でも、物流施設の建設や新規出店投資などが増加しています。

今後の関西の景気については、ウクライナ情勢、感染症や供給制約の動向、原材料価格や消費者物価の上昇の影響などを注意深くみていきたいと考えています。